

令和 2 年 4 月 8 日

共生システム理工学類 高貝慶隆教授が 令和 2 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞）を受賞！

昨日、文部科学省から、令和 2 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者の発表があり、共生システム理工学類の高貝慶隆教授が「科学技術賞（開発部門）」を共同受賞することになりました。

高貝慶隆教授らが行ってきた「原子力災害に貢献する放射性ストロンチウム迅速分析法の開発」が、画期的な研究開発として選考されました。

【受賞内容】

氏名：たかがい高貝 よしたか慶隆（専門：分析化学）

福島大学共生システム理工学類 教授（環境放射能研究所兼務）

ふるかわ古川 まこと真（専門：分析化学）

株式会社パーキンエルマージャパン 分析機器事業本部
アプリケーションリサーチラボ
（共生システム理工学類客員准教授）

受賞名：令和 2 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）

業績名：原子力災害に貢献する放射性ストロンチウム迅速分析法の開発

【業績の概要】

東京電力福島第一原子力発電所の事故直後、放射性ストロンチウム(^{90}Sr)の状況がほとんど公表されないことに様々な懸念が広がり、復興阻害の一因となっていました。従来、 ^{90}Sr と他の放射性核種を区別するため、多くの手作業と放射線計測に 1 ヶ月程度の分析時間を要しており、半減期が 1000 年を下回る核種は、質量分析計による実用分析が難しいとされてきました。

受賞者は、高周波誘導結合プラズマ-四重極質量分析を基軸とする ^{90}Sr の自動分析装置を開発し、従来、2 週間以上の分析時間を要していたものを最短で 10 分に短縮することに成功し、試料水を装置にセットするだけで従来と比較して簡便に運用できる分析装置を提供しました。

本成果により、原子力災害などの放射能分析において、人間の手を介して行う方法よりも従事者の被ばくを最小限に抑える効果が期待できます。さらに、原子力発電所事故後、国家的危機にあった汚染水処理及びその分析業務は、大幅にスピードアップされ、国民へのスムーズな情報公開に寄与しています。

【文部科学大臣表彰について】

科学技術分野の文部科学大臣表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とするものです。

科学技術賞（開発部門）は、我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与する画期的な研究開発若しくは発明であって、現に利活用されているものを行った個人若しくはグループ又はこれらの者を育成した個人が表彰対象とされています。

なお、令和2年4月14日（火）に開催が予定されていた令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰の表彰式は、新型コロナウイルスの感染拡大の防止並びに受賞者及び関係各位への感染リスクを回避するため、開催中止となりました。

（お問い合わせ先）

共生システム理工学類教授 たかがい よしたか 高貝 慶隆

電話：024-548-8202

メール：takagai@sss.fukushima-u.ac.jp

研究振興課研究支援係長 たもかみまき 田母神摩紀

電話：024-548-8009

メール：kyoudo@adb.fukushima-u.ac.jp